

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	地理	担当教員	阪上弘彬
学年学科	1 年全学科	通年	必修 2 単位
学習・教育目標			
授業の目標と期待される効果： 本授業では、地理的研究の本質である人間活動と自然環境の相互関係である「人間－環境」関係の理解、ならびに「持続可能な開発」を視点に地球的・地域的諸問題の把握や解決策の提案を目的とする。 前期では「人間－環境」関係の各要素である人間活動（経済や生活）および自然環境（地形や気候）を理解するとともに、具体的な地域・空間における「人間－環境」関係を把握する。後期では「人間－環境」関係を踏まえたうえで、具体的な地域をとりあげ、地球的・地域的視野から諸問題の原因を分析・理解およびその解決の糸口を「持続可能な開発」の視点から考察、提案する。		成績評価の方法： ・以下の成績評価の対象点を設ける。 前期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+課題 50 点(C) 後期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+課題 50 点(C) 学年：前・後期の重みを等しくして成績評価を行なう。 ※各期および学年の成績評価は、A+B+C を 100 点に換算し総得点率で評価を行う。	
		達成度評価の基準： 以下の各要素についての達成度を評価する。（それぞれの要素に対する具体的規準は最下段の評価規準に示す通りである）。 ①用語の意味を理解しているか。 ②「人間－環境」関係の理解・活用ができるか。 ③持続可能な開発の概念理解を理解し、評価ツールとして活用ができるか。 ④地球的・地域的諸問題の分析・解決できるか。	
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教員による講義やグループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションなど様々な形式で進めていくことになるので、授業が円滑に進められるように教員の指示には真摯に対応するように求める。また、それぞれが学習をふりかえるため、かつ教員がそれぞれの学習状況を把握するため、各自ノートを用意し学習の記録をとることを推奨する。			
教科書および参考書： 教科書および参考書としては、『新詳地理 B』（帝国書院）を指定する。その他、必要に応じて学習材（プリント等）を配布する。			
授業の概要と予定：前期			AL のレベル
第 1 回：前期オリエンテーション：地域・空間を通して「人間－環境」関係を考える			
第 2 回：地域・空間を多様な地図で表現する：岐阜県を事例に			B
第 3 回：環境：地形①			C
第 4 回：環境：地形②／様々な気候と生活①			C
第 5 回：環境：様々な気候と生活②			C
第 6 回：人間：都市空間と農村空間の成り立ち			C
第 7 回：人間：農村空間における経済と生活			C
第 8 回：中間試験			
第 9 回：人間：都市空間における生活と経済			C
第 10 回：地域・空間を客観的・主観的に把握する：岐阜県を事例に			B
第 11 回：北アメリカ地域における「人間－環境」関係①			C
第 12 回：北アメリカ地域における「人間－環境」関係②			C
第 13 回：ヨーロッパ地域における「人間－環境」関係①			C
第 14 回：ヨーロッパ地域における「人間－環境」関係②			C
期末試験			
第 15 回：学習のまとめ：「人間－環境」関係			
授業の概要と予定：後期			AL のレベル
第 16 回：後期オリエンテーション：地球的諸問題と地域的諸問題のつながり			
第 17 回：「持続可能な開発」の歴史			C
第 18 回：「持続可能な開発」から地球的・地域的諸問題を考える			B
第 19 回：食糧問題を地球的・地域的視野から考える			C

第20回：食糧問題の解決案を提案する	C
第21回：砂漠化問題を地球的・地域的視野から考える	C
第22回：砂漠化問題の解決案を提案する	C
第23回：中間試験	
第24回：2つの大国：中国とインド	C
第25回：人口拡大からみた中国とインドの共通点と相違点①	C
第26回：人口拡大からみた中国とインドの共通点と相違点②	C
第27回：人口問題の解決に向けたアプローチ	B
第28回：日本が抱える地球的・地域的諸問題①	C
第29回：日本が抱える地球的・地域的諸問題②	C
期末試験	
第30回：学習のまとめ：地球的諸問題と地域的諸問題のつながり	

評価規準(ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	授業で学習した地理的用語や概念の8割以上を理解し、かつその説明ができる。	授業で学習した特に重要な地理的用語や概念を理解し、説明ができる。	授業で学習した特に重要な地理的用語や概念を理解できない、またその説明ができない。
②	「人間－環境」関係を理解し、地域や空間を「人間－環境」関係から説明することができる。	「人間－環境」関係の要素の一部を理解し、地域や空間を「人間－環境」関係の要素の一部から説明することができる。	「人間－環境」関係を理解できず、また地域や空間を「人間－環境」関係から説明することができない。
③	「持続可能な開発」の概念を理解し、かつその概念を用いて地理的事象や諸問題を評価することができる。	「持続可能な開発」の概念を理解する、もしくはその概念を用いて地理的事象や諸問題を評価することができる。	「持続可能な開発」の概念を理解できず、またその概念を用いて地理的事象や諸問題を評価することができない。
④	地球的・地域的諸問題の構造を「人間－環境」関係から把握し、持続可能な開発の視点から解決案を提案することができる。	地球的・地域的諸問題の構造を、ある一つの視点から把握し、一つの視点から解決案を提案することができる。	地球的・地域的諸問題の構造を把握できず、また解決案を提案することができない。